

目的：運動負荷による味覚や嗜好について調査し、既に甘味について運動後は高濃度のものを好む傾向にあることを認め報告した。¹⁾ そこで、味覚の変化を確認する目的から、閾値の測定および解析の方法を検討した。

方法：閾値の測定は極限法により、対象は18-20才の女子とし、対象者をかえ、同じ人数でくりかえし測定を行った。解析の方法はロジスティック解析とし、補正方法の検討を詳細に行った。閾値の解析法は主に以下の4点：①検定表による方法、②個人の閾値測定とその幾何平均値による方法、③ロジスティック解析：実測値による解析とアボットの補正（正判断率の算出）による解析との比較④ロジスティック解析での信頼区間の算出、から検討した。

結果：運動負荷量はかなりの疲労を伴うものであったので、運動負荷後に官能検査を実施することは難しいと予想したが、極限法で特に支障は認められなかった。閾値は従来報告されている閾値に相当する値が得られたが、解析の方法により若干の値の変動があった。また、従来解析方法では適用できない例もえられた。ロジスティック解析は偶然による確立を含んだデータをを用いるときは適切な補正が必要であるが、偶然による確立の補正をプログラムに組み込んで解析したところ、検定表による解析が比較的信頼性が高かった。

1) 日本家政学会第46回大会研究発表要旨集、174（1994）